

外国人労働者の受入れ拡大 を巡る諸問題

2014年3月28日 フォーリン・プレス・センター

日本経済研究センター
研究顧問
齋藤 潤

今日の内容

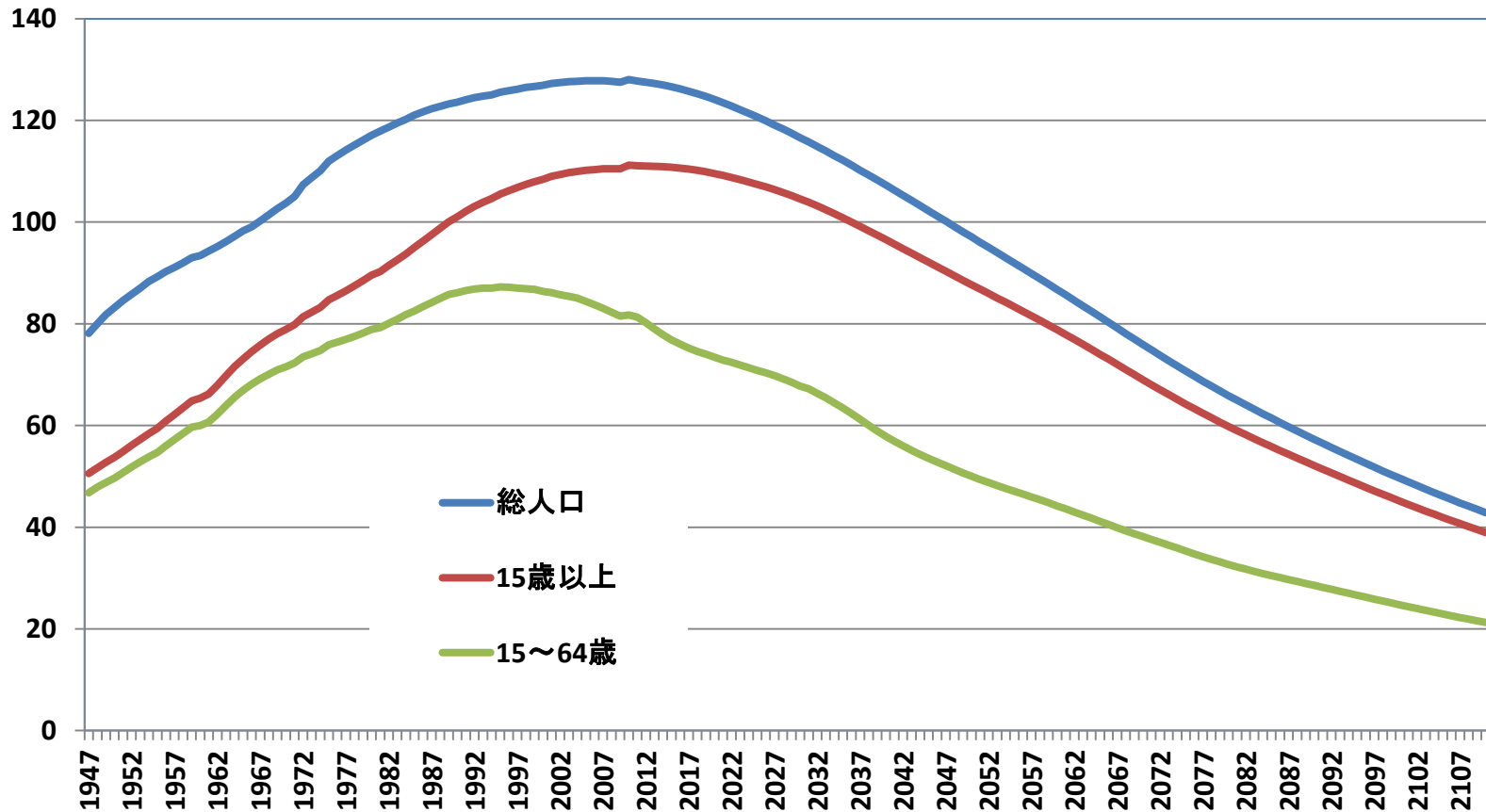
- 外国人労働者の受入れの背景
- 外国人労働者の受入れの現状
- 外国人労働者の受入れに関する考え方
- 外国人労働者の受入れ規模
- 外国人労働者の受入れを巡る懸念
- 外国人労働者の受入れのメリット
- まとめ

外国人労働者の受入れの背景(1)

- 高齢化・人口減少の経済的影響
 - 15歳以上人口の減少
 - 高齢者のシェア上昇→マクロ労働参加率の低下
 - ↓
 - 労働力人口の減少
 - ↓
 - 潜在成長率の低下
 - 財政・社会保障制度の持続可能性が低下

将来人口推計

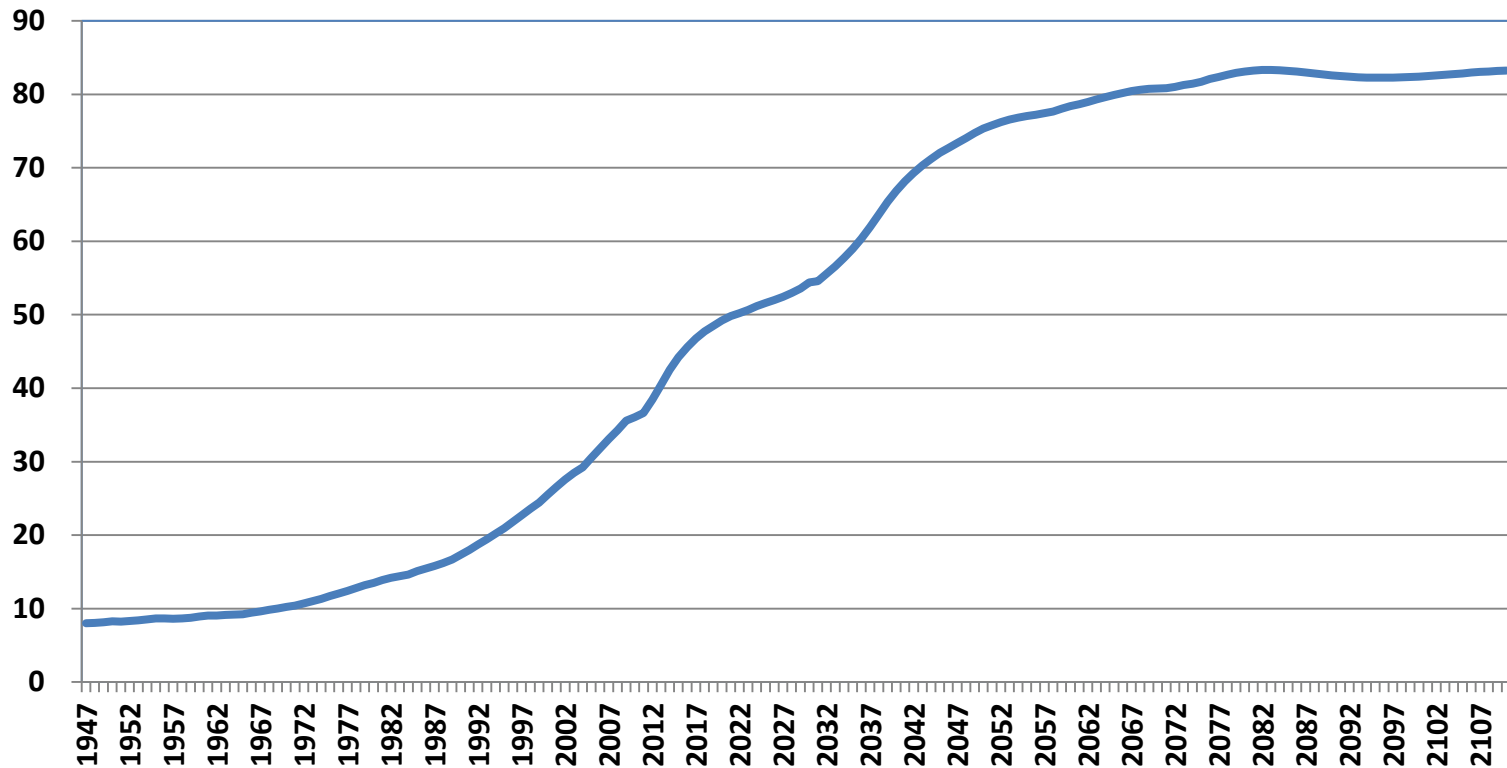
(100万人)



(データ出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年1月)

老年人口指数

(65歳以上人口/15~64歳人口×100)



(データ出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年1月)

外国人労働者の受入れの背景(2)

- 高齢化・人口減少への対応策
 - 労働参加率の引上げ
 - 女性(M字カーブ)
 - 高齢者、若者
 - 出生率の引上げ
 - 保育所の整備、育児手当の充実、ワーク・ライフ・バランスの改善
 - 外国人労働者の受入れ拡大
 - 高度人材
 - 単純労働者

外国人労働者の受入れの背景(3)

- 経済団体からも提言
 - 経団連の提言
 - 「外国人受け入れ問題に関する提言」(2004年4月14日)
 - 「外国人材受入問題に関する第二次提言」(2007年3月20日)
 - 関西経済同友会の提言
 - 「定住外国人の受入れの促進で、日本の再活性化を~いまもとめられる外国人庁の設置~」(2013年5月8日)
- 経済財政諮問会議でも議論
 - 「選択する未来」委員会(2014年1月30日から議論開始)

外国人労働者の受入れの現状(1)

- 在留外国人統計に基づく現況(2013年6月)
 - 合計 2,049,123人 (総人口の1.6%)
 - 中長期在留者 1,671,434人
 - 特別永住者 377,6894人
- この他に短期滞在者等

外国人労働者の受入れの現状(2)

- 外国人雇用状況の届出に基づく現況(2013年10月)
 - 合計 717,504人(労働力人口の1.1%)
 - 身分に基づく在留資格(永住者、定住者等) 318,788人
 - 技能実習 136,608人
 - 専門的・技術的分野の在留資格 132,571人
 - 資格外活動(留学等) 121,770人
 - 特定活動 7,735人
 - 不明 32人
- 特別永住者、「外交」・「公用」は別
- この他に不法在留者

外国人労働者の受入れの現状(3)

- 身分に基づく在留資格 (318,788人)
 - 永住者(ブラジル、中国、フィリピン等) 170,238人
 - 定住者(ブラジル等) 72,804人
- 技能実習(中国、ベトナム等) (136,608人)
- 専門的・技術的分野の在留資格 (132,571人)
 - 人文知識・国際業務(中国等) 54,259人
 - 技術(中国等) 39,244人
- 資格外活動 (121,770人)
 - 留学(中国等) 102,534人

外国人労働者の受入れの現状(4)

- 外国人労働者比率の国際比較

– 日本	1.1% (2011年)
– ドイツ	9.4% (2009年)
– フランス	5.8% (2009年)
– 英国	7.6% (2010年)
– 米国	16.2% (2009年)
– 韓国	2.2% (2011年)
– シンガポール	35.7% (2011年)

» (データ出所) 労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2013」(2013年3月)

外国人労働者の受入れの現状(5)

- 外国人集住都市

(総人口に対する外国人比率、2012年4月1日)

– 群馬県大泉町	(15.3%)
– 岐阜県美濃加茂市	(8.6%)
– 静岡県菊川市	(6.5%)
– 岐阜県可児市	(5.7%)
– 静岡県湖西市	(5.2%)
– 愛知県小牧市	(5.1%)

» (データ出所)外国人集住都市会議東京2012報告書
(2013年3月)

外国人労働者の受入れに関する考え方(1)

- 「我が国は、専門的な技術、技能又は知識を活かして職業活動に従事する外国人の入国・在留は認めるが、これら以外の外国人労働者(いわゆる単純労働者の分野で働く外国人)の入国・在留は認めないこととしている。」
(『出入国管理(平成25年版)』)

外国人労働者の受入れに関する考え方(2)

- 特に、高度な資質や能力を有する者(いわゆる高度人材)については、受け入れ促進のため、ポイント制による優遇制度を導入(2012年5月から)。
- 他方、専門的・技術的分野以外の分野については、極めて限定的。
 - 永住者や定住者は、就労可能。
 - 留学生は、限定的に就労可能。
 - 技能実習生は、限定的に受入れ。
 - 看護師・介護福祉士候補者は、EPAの下で限定的に受入れ。

外国人労働者の受入れ規模(1)

- 国連推計(2000)

- 人口を移民の受入れだけで維持しようとした場合の規模を試算。

- ①総人口を維持するためには、2050年までの間に1,714万人(年平均34万人)の移民受入が必要。

- ②生産年齢人口を維持するためには、同じく2050年までに3,233万人(年平均65万人)の移民受入れが必要。

- » United Nations, *Replacement Migration: Is it a Solution to Declining and Ageing Population?*, 2000.

外国人労働者の受入れ規模(2)

- 日本経済研究センター(2014)
 - ① 生産年齢人口を、出生率の引上げと外国人労働者の受入れの組み合わせで維持しようとした場合の規模を試算。
 - ② 2050年にかけて、出生率を1.8%まで引き上げるとともに、移民受け入れを徐々に増加させ、2050年以降は毎年20万人の移民受け入れが必要。
 - それによって、日本の総人口は2100年頃に約9000万人で下げ止まる。
 - 人口に対する外国人比率は、現在の1.8%から2050年に6%、2100年には13%にまで上昇。
 - » 日本経済研究センター『グローバル長期予測と日本の3つの未来～経済一流国堅持の条件』(2014年2月)

外国人労働者の受入れを巡る懸念(1)

- 経済面での懸念

- 日本人労働者の賃金を引き下げる懸念？



- 逆に、非熟練労働者の賃金は上昇している：中村他(2009)

- 日本人男性が他地域に移動。
 - 日本人女性の労働参加率が低下。
 - 外国人労働者を多く雇用している地域では、非熟練労働集約的な生産をしており、非熟練労働への需要が増加。

- » 中村二郎他『日本の外国人労働力』(日本経済新聞出版社、2009年)

外国人労働者の受入れを巡る懸念(2)

- 経済面での懸念

- 産業構造の高度化を遅らせる懸念？



- 確かに、非熟練労働者を集約的に利用する企業が増加：中村他(2009)

- 労働集約度が高かったり、非熟練労働者比率が高い産業では、事業を継続できる可能性が上昇。
 - 労働集約度が高かったり、非熟練労働者比率が高い産業では、企業の参入が増加。

外国人労働者の受入れを巡る懸念(3)

- 財政面での懸念

- 地方自治体の財政事情が悪化する懸念？



- しかし、外国人労働者の増加がなくても悪化

- 中長期的には過疎化がさらに進展し、財政事情は悪化していくことが不可避。

- また、外国人労働者の増加で改善する面も

- 外国人労働者の納税。
- 外国人労働者を雇用して事業継続できた企業の納税。

外国人労働者受入れのメリット(1)

- 経済成長を高める効果

- イノベーションの促進

- 彼ら自身が発明や起業をする割合が高いだけでなく、知的刺激を与えて、周囲の人のイノベーションも促進。

- 人的資本の蓄積促進

- 大学進学率の上昇：中村他(2009)

- 熟練労働者が相対的に希少になり、収益率が上昇するため、熟練労働者として就業することを目指して進学。

外国人労働者受入れのメリット(2)

- 日本経済研究センター(2013)
 - 必須のサービスではあるが生産性は低い部門(介護等)を外国人労働者に委ね、生産性の高い部門に日本人労働者が雇用され続けることで、経済全体の生産性は上昇。
 - 労働力人口も増加。
 - その結果、外国人労働者の受入れを拡大しない場合に比べ、実質経済成長率は上昇。
 - » 日本経済研究センター『第39回中期経済予測:産業地図の変容と日本の成長力—忍び寄る「双子の赤字」』(2013年3月)

おわりに(1)

- 議論はようやく始まったばかり。
- 議論に際しての重要な論点
 - 比較の対象をどう置くか。
 - 政策割当をどうするか。
 - 政策選択をどう設定するか。

おわりに(2)

- いざ門戸を開放しても、人材は来てくれないかもしれない。
 - 人材獲得競争は既に激化。
 - 潜在的な人材供給国も高齢化。
 - 外国人労働者にとって魅力的な国に。
- 政策決定を誰に委ねるべきか。
 - 選択権は、現在の高齢者ではなく、未来を担う若者に。

ご清聴有難うございました

日本経済研究センター

齋藤 潤